

I 経営の概要

1 学校経営の基盤

大内小学校は、平成28年4月、上川大内小学校と下川大内小学校の2校が統合し、新しい学校として開校した。開校10年目の今年も、コミュニティースクールとして、地域の願いや期待を受け止め、地域の多様な文化等に積極的に関わることで優れた教育環境をさらに創り上げていく。ふるさとに誇りをもち、主体的に行動できる子どもの育成を目指し、地域とともにある学校づくりを進める。

(1) 地域の概要

校舎は、旧大内町の中心地であるJR羽越線羽後岩谷駅より北西に約10kmの地点に位置し、校舎脇を国道105号線が走っている。旧大内中学校の校舎を1年かけて改修した校舎である。

学区は、芋川沿いに広がる農村地帯で、芋川上流の上川大内地区と中流の下川大内地区の二つから成り、広範囲にわたる。北は秋田市雄和方面、東は大仙市南外地区、南はへ横手市大森地区に接する地域に集落が散在している。また、豊かな自然環境に恵まれ、県指定天然記念物の植物や市指定無形民俗文化財の梵天や番楽などの伝統文化が残っている。自然と文化の宝庫でもある地域である。

住民のほとんどが兼業農家で、三世代家族の形態をなしている。祖父母が農業に従事し、父母が会社員や諸官庁等に勤めている家族が多い。地域には、素朴な人情が息づいており、PTA活動や諸行事・奉仕活動へも協力的である。保護者をはじめ、地域の人々は学校教育に寄せる関心も高く、地域全体で子どもたちを見守っていこうという気風がある。また、地域に対する所属意識も大切にしている。

(2) 子どもの実態

本校の子どもは、男子38名、女子38名、合計76名である。登下校は、一部は集団登校だが、学区が広範囲であるためと安全に通学できるよう、スクールバスの送迎車両が6台運行され、約8割の子どもが利用している。スクールバスは中学校との混乗の路線もあるため待ち時間が長く、放課後に子どもが安全に学校で過ごせるように「放課後子ども教室」（キピー大内小学校教室）を開設している。

子どもたちは、明るく素直で基本的な生活習慣は概ね身に付いている。上級生は下級生の面倒をよくみており、学年に関係なく仲良く遊ぶことができる。学習面においては、「学びをつなぐ」をキーワードに研究を積み重ねてきたことで、学習や生活の中で学びを生かそうとする意識が向上してきている。学力に関する諸調査では概ね力を発揮しているが、学年差や個人差が大きく、特に基礎的基本的な内容において課題が見られる学年が多い。

2 経営の基本方針

学校の主役は子どもであり、子どもの「学力保障」と「成長保障」が学校の果たす役割である。そこで、子ども一人一人のよさを認め、主体性を育むことを学校経営の柱にし、学校経営を進めていく。

(1) 子どもを主語にした教育活動の実現

- ・子ども一人一人が主体的に生き生きと授業を楽しむ姿を求めて、分かる授業づくりに取り組んでいく。
- ・諸行事・諸活動を通して、子ども一人一人が、友達や教師との関わりの中で達成感や成就感をもち、満足した表情で学校生活を送ることのできるように、目的を明確にし、計画・実践していく。
- ・安心して学校生活を送り、友だちや教師との関わりの中で、笑顔溢れる表情で過ごすことができる学校・学級づくりに努める。

(2) 共に学び合い、高め合う教職員集団

- ・「チーム大内小」として、教職員一人一人の研修意欲と同僚性を高めながら、主体的・協働的に学び合い、共に高め合い自らの資質向上を目指す。
- ・校章のコンセプトである「和と向上」を具現化し、子どもの成長を目的として日々の実践を大切にする教師集団を創り上げる。

(3) 家庭・地域との連携による信頼される開かれた学校づくりの推進

- ・子ども、教師、保護者、地域の人々の相互の関係をより確かなものにし、人との関わりや交流を大切にする教育活動を通して人と関わりながらよりよく生きていこうとする社会性を培っていく。

3 学校教育目標と目指す姿

(1) 学校教育目標

自ら考え 判断し ^{あした} 明日を創る子どもの育成

(2) 目指す子ども像

よく学び よく遊び 瞳輝く子ども

- 「なぜ」「どうして」「どのように」を考え、学び続ける子ども（知）
- 友だちを大切にし、共に関わり、高め合う子ども（徳）
- 心と体をきたえ、粘り強く取り組む子ども（体）

		よく学び	よく遊び	瞳 輝 く
資 質 ・ 能 力	何を理解してるか何ができるか 【知識及び技能】	○知っていることや分かったことを結び付け、他の学習や生活の場面で活用することができる。	○友達を大切にし、相手を思いやることができる。 ○誰にでも元気にあいさつができる。	○基本的生活習慣を身に付けている。
	理解していることやできることをどう使うか 【思考力・判断力・表現力等】	○知っていることや分かっていることをどのように使えばよいか分かり、自分の考えや思いを表現できる。	○相手のことを考えながら、助け合い励まし合う。 ○場に応じた言葉遣いができる。	○自分の生活を振り返りよりよくしようとすることができる。
	どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか 【学びに向かう力・人間性等】	○学んで得たことを実際の生活に結び付けて生かそうとする。 ○ふるさとのよさが分かる。	○協力して働くことができる。 ○ふるさとを愛する。	○粘り強く努力することができる。 ○ふるさとに生きることを誇りに思う。

(3) 目指す学校像

■一人一人が輝き、みんなの笑顔があふれる学校

- 子どもの学びと成長を保障する学校
- 子どもが安心して過ごせる人に優しい学校
- 全校体制で子どもの成長に資する組織力の高い学校
- 家庭・地域・学校がお互いに協力して創り上げる開かれた学校

(4) 目指す教師像

■子どもと共に～寄り添い 支え つなぐ～

- 子どもを愛し、子どもに寄り添う教師
- 子どもの思いや願いを大切にし、意欲を高める教師
- 研修に励み、高い専門性と人間性を追求する教師
- 子ども・保護者・地域に信頼される情熱ある教師

4 経営の重点と具体的施策

(1) 主体的に学び合う授業づくり・集団づくり

- ①主体的に学び合う授業づくり
 - ・子どもの問いや思いに応じた学びの展開
 - ・考えを深める学び合いの充実
 - ・教科の特性に応じた柔軟な授業スタイル
- ②学びに向かう集団づくり
 - ・育てたい資質能力を明確にしたカリキュラムマネジメントの実施
 - ・学ぶ喜びの価値付け
 - ・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた支援の共有
- ③基礎的・基本的な内容の定着とそれを活用する能力の育成
 - ・朝活動やパワーアップ学習の効果的な運用
 - ・全校チャレンジテストへの取組

(2) 思いやりの心とたくましい心身を育む教育の充実

- ①温かな人間関係を支える集団づくり
 - ・縦割り活動の計画的な実施と振り返りの充実
 - ・「自己肯定感」「自己有用感」を得られる機会の設定
- ②自主性や社会性を育てる体験的な活動の充実
 - ・学団部で協力し、協働による行事運営
 - ・育てたい資質・能力に照らした体験活動の実施と振り返り
- ③健康な心身をつくる生活習慣の確立と体力向上への取組
 - ・基本的生活習慣の確立、あいさつ・返事の励行
 - ・運動への関心・意欲・態度の育成
 - ・目標に向かってひたむきに取り組む気持ちの育成
- ④道徳的実践力を高める各教科・各領域の効果的な指導
 - ・重点価値項目（生命尊重）（親切・思いやり）（自律 自由と責任）
- ⑤自他の生命を守る安全意識・危機管理能力の育成
 - ・地域の実態に応じた実効的な指導の充実

(3) 地域に開かれた信頼される学校づくりの推進

- ①学校運営協議会、地域学校協働活動等を活用した地域住民の学校運営参画の推進
 - ・年3回の学校運営協議会の実施
 - ・放課後学習教室や学童との連携
 - ・地域コーディネーターを核としたふるさと先生の活用
- ②幼保小連携の充実・発展
 - ・保小連絡協議会の計画的な実施
 - ・架け橋プログラムの実施に向けた共通理解と教師間交流
- ③学校報やホームページ等を活用した積極的な情報発信
 - ・地域参加型の行事運営
- ④子ども一人一人のニーズに応じた支援の充実
 - ・個人面談の実施
 - ・外部関係機関との連携

(4) 教職員一人一人の資質能力と組織力の向上

- ①教員一人一人の専門性や経験を活し、チームとして取り組む体制の構築
- ②教職員同士が互いに学び合う校内研修の充実